

志教育の 視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☐はたす
------------	----------------------

活動名	【主権者教育】議会懇談会（柴田高校×柴田町議会）
教科・領域等	公民（総合的な探究の時間と関連）
活動学年・人数等	第3学年 公民総合A
ねらい	地域の議会関係者との対話を通して、地方自治や政治の仕組みを身近なものとして捉え、社会の一員としての自覚を高めるとともに、将来の地域社会の在り方について主体的に考える力を育成する。 また、自らの将来像や価値観を踏まえながら、多様な立場の意見に触れ、対話を通して考えを深めることで、よりよい生き方を模索する姿勢を養う。

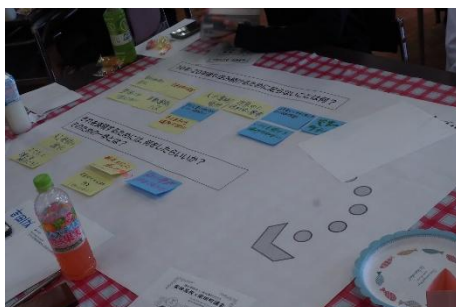
【実践内容】

本校では、令和7年10月3日、3年生公民総合A履修者35名を対象に、柴田町議会議員との懇談会を実施した。本取組は、地域の議会関係者と直接対話することを通して、地方自治や政治を身近なものとして捉え、将来の地域社会の在り方について主体的に考える機会とすることを目的として行った。

懇談会では、「20年後も住みたいまち～あなたが市町村長だったら、どのようなまちづくりをするか～」をテーマに、議員と生徒が混成グループを作り、ワールド・カフェ形式による対話を行った。まず、個人ワークとして10年後・20年後の自分の姿を思い描き、その後、小グループで意見交換を行いながら、理想の暮らしやまちに必要な条件について話し合った。途中で席替えを行い、異なるメンバーとの対話を重ねることで、多様な視点や考え方に触れる機会とした。

対話の中では、人口減少や交通、産業、財政など、地域が抱える課題について意見が交わされるとともに、「自分たちに何ができるのか」「どのように意思を伝えていくことが大切か」といった視点から考えを深める姿が見られた。議員は、生徒の意見を尊重しながら、自身の経験を交えて対話に参加し、生徒が安心して意見を述べられる雰囲気づくりに努めた。

活動後の振り返りでは、「議員の方と直接話すことで政治を身近に感じた」「自分の町の未来について真剣に考えるきっかけになった」「選挙に参加することの大切さが分かった」などの感想が多く寄せられた。今回の取組を通して、生徒は地域社会の一員としての自覚を高めるとともに、自らの将来と地域の未来を結び付けて考える貴重な学びを得ることができた。



【成果・課題や今後に向けて】

○成果

本取組を通して、生徒は地域の議会関係者と直接対話する経験を得ることで、地方自治や政治を身近なものとして捉え、社会の一員としての自覚を高めることができた。これまで政治や町政を「遠いもの」「難しいもの」と感じていた生徒も、議員との対話を通して、自分たちの生活と深く関わっていることに気付き、地域や社会への関心を高める様子が見られた。

また、将来の自分の姿を思い描いたうえで、理想のまちや暮らしについて意見を交わす活動を通して、生徒は自分自身の価値観を見つめ直すとともに、多様な立場や考え方を尊重しながら対話する態度を身に付けた。ワールド・カフェ形式による話し合いでは、席替えを行いながら意見を共有することで、多角的な視点から課題を考える力が育まれた。

活動後の振り返りでは、「自分の町の未来について考えるきっかけになった」「選挙に参加することの大切さが分かった」「地域に少しでも貢献したいと思った」などの声が多く寄せられ、生徒一人一人が地域社会と自分との関わりを主体的に捉えるようになったことがうかがえる。今回の取組は、主権者としての意識を育むとともに、よりよい生き方を模索する姿勢を育成する点で、大きな成果を上げた。

○課題や今後に向けて

今回の取組では、生徒が地域の議会関係者と対話する中で多様な意見に触れ、地域社会への関心を高めることができた一方、限られた時間の中で、地域が抱える課題について十分に掘り下げることが難しい場面も見られた。生徒からは、「もっと具体的に考えたかった」「事前に町の課題について調べておけば、より深い話し合いができたのではないか」といった声もあり、事前の学習とのつながりが今後の課題として挙げられる。

そこで来年度は、懇談会の前段階として、授業において地域が抱える課題について事前に学習する時間を設けることを検討している。人口減少や交通、産業、子育て支援などのテーマごとに生徒が課題を整理し、関心のある分野ごとにグループを編成したうえで懇談会に臨むことで、より焦点を絞った対話が可能になると考えている。

今後は、事前学習・対話・振り返りを一体的に行うことで、生徒が地域の課題を自分事として捉え、主体的に考え、意見を発信する力を一層高めていきたい。また、こうした学びを通して、将来の主権者として社会に参画しようとする態度の育成につなげていく。